

発達障害学生の理解と支援のためのガイド

「気付き」から「支援」まで

●はじめに — 「気づき」を具体的な「支援」につなげるために

現在大学では、発達障害という診断を受けている学生や、その可能性があると思われる学生が学んでいます。発達障害学生たちも、他の学生と同じように学ぶ意欲があり、豊かな発想力、創造力も備えています。しかし、課題への取り組み方や集団活動への参加に困難を抱えやすく、適切な支援がなされないと、その能力を十分に発揮できない恐れがあります。

とりわけ、学業・対人関係・コミュニケーション・生活管理などに困りごとを抱えやすいといった特性を理解したうえで、学びの環境を整えることが、発達障害学生の学修への意欲を支えることになります。更に、先生方や周囲の学生にとっても、困りごとを抱えやすい学生と共に学ぶ見通しを立てやすくなります。

このガイドでは、発達障害学生を含む学びのコミュニティが円滑に機能するよう、先生方の気づきを具体的な支援につなげるための方法を紹介しています。

先生方のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

●発達障害とは — 医学的見地に基づく理解

発達障害の特性は、脳の中樞神経ネットワーク特性による独特な認知の特徴によって生じるといわれています。大学には、様々な発達障害の特性をもつ学生が在学しています。

【自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害・ASD】

*高機能自閉症・広汎性発達障害・アスペルガー症候群

知的発達の遅れはないものの、対人関係面、言語面、特定のものに対する興味・関心面に問題があるため、意見のやり取りが必要なゼミや小集団教育場面で、紋切り型の話をしたり、行間を読めない行動がみられることがあります。相手の気持ちを推察することが難しいため、意思疎通をうまく図ることができないこともあります。

【限局性学習症・限局性学習障害・SLD】

*学習障害・LD

知的発達の遅れはないものの、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する能力のうち、いずれか、もしくは複数の能力に問題が生じます。大学生活では、授業中ノートを取ったり、必要事項をメモすることが難しい、聴力に問題はないものの聞き間違いをしやすいため返答内容がずれる、発言内容の整合性に欠ける、黙読が難しく声に出して読んでしまうなどの問題が生じることがあります。

【注意欠如/多動症・注意欠如/多動性障害・ADHD】

*注意欠陥/多動性障害

年齢に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性により、社会的な活動に支障をきたしやすい傾向があります。例えば、整理整頓や時間管理が難しいため、書類の提出忘れや遅刻などの問題がみられます。また、約束をすぐ忘れてしまう、興味のある課題には積極的に取り組む一方で、そうでない課題には取り組もうとしない、好きなものに没頭しすぎて生活全体のリズムを崩しやすいといったことが、しばしば問題になります。

●大学生の発達障害とは — 「困った学生」は「困っている学生」

自主的な学びを基本とする大学環境への適応は、全ての学生の課題です。しかし、発達障害の特性

が、その適応を著しく妨げる原因となる場合があります。

例えば、次のようなケースの中に、発達障害特性ならではの理由で、自力では解決しにくい困りごとを抱え、支援を必要としている学生がいます：

頻繁に遅刻・欠席する学生



- ・ 身づくろいから出かける準備まで、優先順位や程度を決めて要領よくこなすことができず、授業開始時間に間に合わなくなる。
- ・ 雑踏（音）の刺激が強すぎて、込み合ったキャンパスを歩くのがつらい。
- ・ 最初のグループワークで一言も話せなかったため、自分は全員から嫌われている・このクラスに参加する資格がないと思いついてしまった。

グループワークや話し合いに参加しない学生



- ・ 聞いたことを忘れやすいため、話題の流れがいつまでも掴めない。
- ・ 「どう思う？」と聞かれても、何を求められているか分からず返答に困る。
- ・ 空気の読めない発言をして嫌われてしまったらどうしようと、そればかり気にしてしまう。
- ・ 自分とは違う意見を聞くと、否定・攻撃されたように感じてしまう。

締切までに提出物を出さない学生

- ・ その場でスケジュール帳に書き込むが、そのスケジュール帳自体を無くしてしまう。
- ・ 口頭で伝えられても、その場でメモすることができない。またはそれが、メモを取るべき重要な情報だと気付けないときがある。
- ・ 時間管理や優先順位が難しく、何から始め・いつまでに取り組めばいいのか判断に困る。
- ・ メールやポータル、掲示板を確認するように言われるが、情報が多すぎるためどれが自分にとって必要な情報なのかわからない。

レポートを提出しない・レポート内容が極度に稚拙な学生

例：「最も興味のあるテーマに基づき、自分の意見を論じること（字数自由）」

- ・ 沢山あるテーマのうち、何をどのような基準で選べばいいのか分からない。
- ・ 「知っていること」は書けるが、「自分の意見」は何を書けば正解なのか分からない。
- ・ 何文字書けば正解なのかを考え続けて、全く手がつけれられない。
- ・ 「しかし」「ところが」どちらの接続詞を選ぶか、延々と迷い続けてしまう。



● 支援の流れ - 教室での気づきから連携支援の開始まで

発達障害学生は、大学生として「できるはず」だと期待されているタスクを遂行するうえで、特性ゆえんの支障をきたすことがあります。また、自分が発達障害の特性を持つことに気付かない学生も多く、自分の困りごとが特性に由来することだと理解することが困難な場合があります。

自ら相談することが困難なこれらの発達障害学生にとって、先生方の関心と気づきが、支援につながる重要な契機となります：

① 困りごとを抱える学生の存在を報告する

学修に支障をきたしている学生に気付いた場合は、以下にご報告ください：

- 学部事務室（学生が所属する学部にご連絡ください）
- 障害学生支援室（5 ページ参照）

② 困りごとの詳細や懸念事項を、学部事務室・障害学生支援室と共有する

次のような情報が、課題分析や支援内容の判断に役立ちます：

- 出席回数・(小)テスト受験回数・課題提出回数
- レポート・その他提出課題の内容から推測される学修上の懸念
- グループワーク・その他の場面における、クラスメイトとの関わりの様子

③ 学部事務室・障害学生支援室と協働し、困りごとを抱える学生への支援を実施する

支援の基本的な考え方は、1)課題の発見と言語化、2)情報の視覚化と構造化、の二つになります。その原則に基づいた支援事例は、以下のようなものがあります：

頻繁に遅刻・欠席してしまう学生



- ・ 個別面談を実施。大学生活について話し合いながら、遅刻・欠席の原因と課題を発見する。
- ・ 時間管理や下宿生活マネジメントのアドバイスを受けるよう勧める。

グループワークや話し合いに参加できない学生



- ・ 話し合いのトピックを黒板に書き出し、視覚的に確認できるようにする。
- ・ 書記を決め、その学生が取っているメモをみせてもらうことを勧める。
- ・ オリター／エンターと一緒にグループワークに参加させる
- ・ 学部事務室や支援コーディネーターと相談し、気になること・不安なことを整理するよう勧める。

グループワークの感想や意見などを、個別に聞く機会を設ける。

締切までに提出物を出せない学生

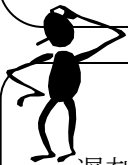
- ・ 締切やテスト日などの重要な情報は、配布物として渡す／書くなどして視覚的に提示する。
- ・ 授業後、重要な期日などを一緒に確認する。
- ・ 課題の取り組み方について、基本的な手順を説明する。

レポートを提出できない・レポート内容が極度に稚拙な学生



- ・ 本人の興味に基づき、テーマ選択や文献選びについてのアドバイスをする。
- ・ 段落構成・文字数など、基本的なレポートの構造を説明する。
- ・ 長いレポートは、序論・本論・結論などに区切って取り組みをするようアドバイスする。
- ・ 締切前に、レポートの取り組み状況を確認する。

支援が必要だと思われるが、本人への声がけ・直接の働きかけが難しい学生



- ・ 遅刻や欠席状況、レポートや課題への取り組み状況、クラスメイトとの関わりの様子など懸念事項を継続的に学部事務室・障害学生支援室と共有。本人への働きかけのタイミングを見計らう。

④ 授業への取り組み状況について、具体的なフィードバックを行う

レポートなどの課題やテスト結果、クラスメイトとの関わりなど、授業内での様子を総合的に評価し、学生が達成できたこと・できなかったことを具体的にお伝えいただくことが、その後の学修の見通しを立てる助けになります。

●支援事例 - 大学生としての学びにつながる連携支援の方法

<出席ができずに困っているAさん>

1回生のAさんは、5月下旬にして小集団の授業をすでに4回欠席し、課題も提出していない。このままでは単位が取れないことを心配した教員が学部事務室に連絡し、Aさんとの面談を調整した。

学部事務室職員と教員が話を聞いたところ、Aさんは、一日中込み合ったキャンパスの中で人目にさらされるストレスに耐えられないこと、また授業では、自分の意見はあるが話すことが苦手なためディスカッションの場で発言ができないことに劣等感を感じ、孤立感を深めていることが分かった。

そこで、学部事務室と教員は、障害学生支援室との連携のもと、Aさんへの支援を開始。まずAさんの身近な相談相手としてオリターの一人を紹介した。また、ディスカッションなどで伝え切れなかった意見を個別教員にメールで送信、教員は、折に触れてAさんの意見へのフィードバックをするように努めた。また、Aさんの様子から障害学生支援室の紹介が難しいと判断し、当室の発達障害担当支援コーディネーターが学生オフィス職員としてAさんと面談。図書館やラウンジなど、混雑を避け静かに過ごせる環境を探すなどの工夫を提案した。

結果Aさんは通学できるようになり、この授業の単位を取得。その後も自分にあった居場所と相談場所を活用することで、大学生活を継続する見通しを立てることができた。

<締切や時間が守れずに困っているBさん>

1回生小集団のクラスで、あるグループから、そこに所属するBさんについての困りごとの相談があった。グループによるとBさんは、グループ内で分担した調査の役割を全く果たそうとしない、ミーティングを欠席する、説明したはずのことを何度もしつこく聞いてくる、などのトラブルが続き、対応に困っているとの話だった。

状況を聞いた教員は、早速Bさんから事情を聞いた。するとBさんは、グループでの役割やミーティングなどの約束については記憶があいまいであること、また授業に限らず他の生活場面でも忘れやすく困っていること、などが明らかになった。

教員はこの状況を学部事務室と障害学生支援室に相談。情報の可視化がBさんの支援に有効とのアドバイスを得た。その後教員はBさんと面談し、グループメンバーに謝罪した上で、今後はミーティングの日時や役割分担の内容などはメールでやり取りをお願いしたいことを伝えるよう、本人にアドバイスした。

結果Bさんは、メンバーの協力のおかげでグループワークに参加できるようになった。またこれをきっかけに、聴覚情報の保持が苦手な自分の特性に気付き、障害学生支援室の支援を受けながら、自分にあった工夫を模索している。

● 最後に - 包括的に学生の学びを支える支援を目指して

発達障害などで困りやすい学生を中心とした適切な支援の実践には、先生方を始めとする学内構成員の連携が重要です。立命館大学では、学部事務室と障害学生支援室が、連携に基づく支援を開始するための相談窓口となっています。気になる学生がいらっしゃる場合は、ご遠慮なくご相談下さい

「障害学生支援室」 連絡先

【衣笠】

所在： 学生部 学生オフィス・障害学生支援室
Tel： 075-465-8343 (内線：511-4878)
Fax： 075-465-8169
Mail： sns-k@st.ritsumei.ac.jp



【BKC】

所在： 学生部 学生オフィス・障害学生支援室
Tel： 077-561-3951 (内線：515-2335)
Fax： 077-561-3954
Mail： sns-b@st.ritsumei.ac.jp



【OIC】

所在： 学生部 学生オフィス・障害学生支援室
Tel： 072-665-2130 (内線：513-2402)
Fax： 072-665-2139
Mail： sns-oic@st.ritsumei.ac.jp



【朱雀】

【衣笠】 障害学生支援室までご連絡下さい

● 参考1 「授業内での気付きリスト」

これまでに学部事務室・障害学生支援室に寄せられた気になる学生の様子です。
この状況の裏にある困りごとの可能性を想像し、報告して頂くことが、支援のきっかけとなります。

- 欠席が続く・出席状況が非常に不安定
- 遅刻が非常に多い・常に遅刻する
- 全く課題を提出しない・レポートや特定の課題を提出しない
- 注意力が散漫で落ち着きがない
- 指導や指摘に関わらず、同じ失敗を繰り返し、状況が改善しない
- 普段まじめに出席しているが、なぜかテスト日に欠席してしまう
- レポートや記述式課題の内容が極度に稚拙（極度に字数を満たさない・事実の羅列のみ・脈絡のない文章）
- 学生本人から、学修や大学生活に関する不安を訴えられる
- 特定の学生について、周囲の学生から困惑の声があがる（約束を守らない・非協力的）

● 参考2 「立命館大学障害学生支援方針」

立命館大学では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」及び、「文部科学省所感事業分野に於ける障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応方針」に基づき、「立命館大学障害学生支援方針」を策定しました。この方針に従い、障害学生の所属する学部・研究科の学びの特徴と障害学生のニーズに基づいて、個別に合理的配慮の内容について検討していきます。

参照： 「立命館大学障害学生支援方針」 HP： <http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=243806>

● 参考3 「資料リスト」

1) 立命館大学 障害学生支援室

<http://www.ritsumei.ac.jp/drc/>

「大学と障害学生：学生たちが考え、書き綴った、障害学生をめぐる大学のいま」

「大学と障害学生：障害学生への合理的配慮ってなに？」

「理工系 板書代筆マニュアル」

「私たちのパソコンテイク」

2) 日本学生支援機構 「教職員のための障害学生修学支援ガイド」

http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/guide_kyouzai/guide/index.html

3) 日本学生支援機構 「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」

http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/index.html